

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区冬木22-24リブリ・コスズ201
施設名	小鳩スマート保育所 冬木

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

見立て遊び・つもり遊び

〈テーマの設定理由〉

日頃から遊びの中で現実の物や状況を他のものに見立てたり、想像を膨らませ様々な状況を再現したりして楽しむ子どもの姿が多く見られる。何かを見立てたり何かのつもりになったりして遊ぶ子どもたちの気付きや発見に着目し、援助や環境を考え子どもの遊びがさらに広がるきっかけとなるよう本テーマを設定した。職員間の語り合いを通して子どもの意欲や探求心を確認し合う中で子ども理解を深め、保育の質の向上を図る。

2 活動スケジュール

- ◆10月 話し合い・環境設定の見直し①
- ◆12月 振り返り・環境設定の見直し②
- ◆2月 振り返り

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

リトミックスカーフ、バンダナ、お人形、本棚、おままごと用キッチン、おままごと用テーブル、ドレッサー、お医者さんセット、コーナーマット、子ども用ベンチなど

#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

室内外で見立て遊びやつもり遊びをする。一人一人の子どもが、人や物を何かに見立てたり、自分が何かのつもりになったりする遊びを楽しみ、自分なりの考えや想像を巡らせ、遊びを広げていく。

##### 〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

0歳児クラスの子はくるくる回るメリーを見てメリーの模倣をし自らくるくる回ったり、音楽に合わせて手拍子をしたり踊ったりして楽しんでいた。ベンチを設置すると他児と隣同士に座り顔を見合わせ笑い合っていた。1歳児クラスはリトミックスカーフをマントに見立て好きなキャラクターになりきったり、バンダナを布団に見立ててお人形を寝かせたりしていた。本棚を設置し、絵本が取り出しやすくなったことで自ら絵本に触れる時間も増えた。子どもが先生役となり他児に読み聞かせをして楽しんでいる姿も見られた。2歳児はおままごとコーナーを充実させたことでおままごとが盛んに行われていた。料理を作るだけでなく、作った料理をお人形に食べさせたり、他児と作ったお弁当を持参してピクニックに出かけていた。様々な色のマットを増やしたことで緑色のマットの上では「ここは葉っぱだよ」と草原に見立ったり、水色のマットを「ここは海だよ」と見立てたりして恐竜や動物の人形で遊んでいる子もいた。保育者は子どもの遊びの邪魔にならないよう、一緒に同じ遊びを楽しんだり、さりげなく遊びの模倣となっていた。



#### 5 振り返り

##### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

様々な種類の玩具が用意されていることにより好きな玩具で夢中になって遊び込んでいる姿が見られた。バンダナ1つで自身の頭や身体に巻いて、ドレスに見立てたりヒーローのマントに見立てたり、赤ちゃんのお布団に使ってみたり、バッグにしてみたり、2歳児は0歳児に向けて顔を隠していないいばあをしてあやしてみたりと様々な遊びの展開が見られた。おままごとのテーブル一つでも、そのテーブルが家の中のテーブルになったり学校の机になったり、人形劇の舞台となったりと様々であった。子どもたちは色々な物を身の回りの物に見立て、一人一人の世界観で遊び、それぞれの表現で発想豊かに楽しんでいた。引き続き子どもが物を何かに見立てたり、自分で何かのつもりになったりする遊びを楽しめるよう環境を工夫していきたい。